

岐阜大学名岐鉄道同好会 2014 夏旅行

大井川鉄道全線完乗の旅 旅行記

文責：医学（14）〇

僕は小学生の時大井川鉄道のSL急行に乗車したことがあった。しかしツアーで行ったために家山→新金谷という微妙な区間しか乗車しなかった。その後大井川鉄道に中学・高校の間もずっと乗車することはなかった。というのも千頭で折り返すと井川線を残してしまい井川線に行く気がほぼ0になってしまふだろうと思う一方で井川まで行くのは時間とお金がかかるから自分から行こうと決心できなかったからだと思う。それでも行きたい気持ちが少しあっていつか行きたいなと思っていたが、今回大学鉄研の旅行で連れてっていただけて本当によかったと思う。また岐大鉄研に入って初めての旅行でとても楽しい旅となった。ということで旅行記を書いていこうと思う。

岐阜 8:07→浜松 10:06 (大垣 8:09→名古屋 8:42 8:56→(新幹線)→豊橋 9:20)

養老鉄道で大垣まで行き特別快速に乗車。岐阜からみなさん乗ってこられるだろうと思しながら乗車していた。ところが、送られてきたラインやらメールやらを見て徐々に不安になってきた。つじつまがあわない……。そして岐阜に着く直前で気が付いた。「自分は1本後に乗ってしまったらしい。」これはやばいと思い時刻表をめくる。新幹線を使えば1本前に追いつけるだろうと期待しながら新幹線のページを見て、名古屋から豊橋まで新幹線を使えば追いつくことができると思った。とりあえず安堵。しかし結果新幹線乗車代として2300円余分に払わなければいけなくなってしまった。18きっぷほぼ一回分である。もちろん事前に計画表を見たのだが、岐阜の出発時刻を勘違いしていた。次からは気を付けようと心にちかった。~~また、余分な金をJR東海に落とすことのないようにしなければならない~~と思った。豊橋に着き既定の列車に乗ると同じ医学のK君や先輩方の姿が目に入ってきた。

浜松 10:10→金谷 10:50

浜松で乗り換え。転乗口からロングへ。格差が大きすぎる。高校の鉄研では静岡ロング地獄と呼ばれていた。しかし今回はまだ区間が短いのでロング地獄もたいしたことにならなかった。

(大井川鉄道) 金谷 11:04→千頭 12:17

大井川鉄道の金谷駅に移動。すると大勢の人が狭い駅舎内でごったがえしている。という

のも大井川鉄道でトーマスフェアが行われているからである。小さい子供をつれた家族連れが多い。きっぷ窓口の列もあるのかないのかよくわからないまま窓口へ行きフリーきっぷを購入した。一応まだ時間があるので駅舎内を見渡していると、運賃表やよくあるようなポスターなどの掲示物の中に妙な「はりがみ」を発見。



「アジア初きんしゃトーマス運行」

日本初ではあるが、アジア初でもある。確かにこのことは間違ってはいないのだが、アジアというなんとも微妙な枠組みをもってきた意図がよくわからない。日本以外のアジアの国々から人々が来るわけでもなさうだからだ。正直いって日本初でよかったのではないだろうか。しかし少しでも希少性を出そうとした点に愛着が感じられた。

時間がきたのでホームへ行くと見慣れた配色の車両が止まっている。車両は近鉄の南大阪線と吉野線で使われていた16000系。元特急車だけあって座席は2列のリクライニングシート。先ほどのロングとは大違いである。ただ、少々車両がボロいことは否めない。特に外装はボコボコになっているところも多く無残な状態になっていた。大井川鉄道はほとんどの資金をSLに費やしているのであろうが、普通列車に使う車両もきれいな状態で使ってほしい。地元住民の足として。~~また、動態保存鉄道として。~~



路線は大井川鉄道の名の通り大井川に沿って進む。大井川は川幅が広く車窓で眺めていてとても気持ちがよかったです。また途中塩郷の近くには吊り橋もあって10人くらい観光客が渡っている様子も見えた。大井川鉄道に乗ったのはだいぶん前だったので車窓がどうだったなどということは全く覚えておらず期待もしていなかったが、想像以上に車窓がよく

千頭まで楽しく過ごすことができた。

千頭 12:28→井川 14:18

千頭はトーマスやお友達のヒロなどの写真を撮る人、そのほかさまざまなイベントに参加する人で金谷の比にならないくらい大混雑だった。人が多すぎて改札を抜けるのも大変なほどであったが食糧を求め改札を出て売店にいった。ところが弁当は売り切れ。そのほかもお菓子くらいしかない。何かないかとみているうちに出発時刻が迫ってきたのであきらめて改札を通り井川線の方に乗車した。



千頭を出発。今回井川線に乗車することはもちろんわかっていたが、アプト区間があるのは知っていてもどこがアプト区間なのかということについてすら確認しなかったくらい何も調べず自らの想像だけで井川線のことについて考えていた。ところが、どんどん進むにつれ実際の井川線は想像していたものと大きく異なることがわかつてきた。まず、大井川本線とはうってかわって急カーブとトンネルの連続であることだ。路線名が違うとはいえ両方とも狭軌でつながっているのだから同じような線形の路線かと思っていたが全く違っていた。次に車両が小さいことである。黒部峡谷鉄道の車両のようだった。さらに車両の扉はすべて手動で各駅に停車する毎に車掌がすべて手動でロックするというのも驚きだった。おまけに車掌が駅に入線して停車する前、列車が時速約5 km/h くらいで走っている最中にホームと呼べるかどうか怪しい低いホームに降り立ってしまうのである。これには少なからずカルチャーショックを受けた。



40分くらい乗車してついにアプトイチしろ駅に着いた。ここから隣の長島ダム駅まで 90% のアプト区間である。一旦ホームへ降り立ちアプト区間用の電気機関車を後ろに連結する作業を見学。手際よく連結された。それにしても定期列車が1日5往復しかないこの区間に特殊な機関車をはじめとした設備があるのは本当に贅沢な話であるといえばそうなのだが、この路線は実は中

部電力が所有しており発電所への資材輸送（といっても現在はほとんどないらしいが）のために必要であるらしい。そのため年3億の赤字を中部電力が補填しているそうである。

アプトイチしろ駅を出るとゆっくりと急勾配を進んでいく。右手には長島ダムの巨大構造物が見える。よくこんなものを造るものだと感心する。しばらくして長島ダム駅に到着し機関車を切り離し普通の「粘着運転」に移る。列車は順調に進んでいく。周囲の大部分を湖に囲まれた奥大井湖上、野天温泉などといった看板のある宿が狭い谷に点在する接岨峡温泉、秘境駅で全国トップクラスの尾盛を通り閑蔵駅に着く。これで井川までついにあと1駅と思い列車の左側を眺めるとなにやら案内板がある。

「奥大井 65 キロ（金谷—井川）列車の旅も、あと5キロ。（中略）これより森林鉄道井川線は、トンネル 20ヶをくぐり標高 686 メートル、終点井川まで一気に登ります。」

トンネルが多いのでいくつあるのか気になって所々でトンネルの数を確認していたのだが、ちょうど閑蔵に着く直前のトンネルが千頭からの通し番号で41、つまり千頭—閑蔵で41ヶトンネルがあることがわかっている。このことと今見た案内板から、尋常でなく多い井川線のトンネルのうち数だけみると閑蔵—井川の1駅間に約3分の1があるという驚愕の事実が発覚。あと1駅だと思った僕が馬鹿だった。と同時に井川線をなめてました。恐るべし井川線。結局閑蔵から18分かかって終点井川に到着した。

井川 14:49→千頭 16:34 16:51→金谷 18:01



秘境井川。とんでもないところにやってきたという感じしかしない。駅前には道路と山しかないが道をずっといくと井川の集落がある。集落自体は現在600人ほど住んでいるらしいが小学校はもちろん中学校まであるのだから驚きである。以前NHKスペシャルで日本アルプスの山々を通過して富山から静岡まで駆け抜ける「トランシジャパンアルプスレース」の特集を観たことがあるが、そのレースが井川を通過していたこと、1週間という制限で富山から静岡まで行くところを4日で行ってしまう一番速いランナーが井川出身の人であつたことが思い出される。その人は中学の時自宅から学校まで数キロの山道を毎日走ってい

たらしく、井川は桁外れの秘境だと番組を観て思った。そのため自分が今その井川にいると思うととても不思議な気分であった。井川では駅前広場に土産物屋や団子屋のテントがあった。とりあえず空腹を満たすために団子を食す。団子屋には店を切り盛りする女性と小学校1年くらいのお子さんがいたが、その子供がテントすぐ横にあった高い脚立の上の方に上って遊んでいてお母さんが危ないといって注意していた。それにしてもたくましいものだと思った。駅前で参加者が全員集まり、先輩やOBの方々、そして新しく入部した僕とK君の自己紹介が行われた。そして井川の駅スタンプを押したのち折り返し列車に乗車した。発車するときには団子屋の親子が仲良くこちらに手をふっていた。

後はひたすら今日きた経路をもどつていくだけである。行きにみた車窓を再度眺める。それにしても狭い車内と直角の座席はなかなかきつい。これで1時間45分耐えるのは本当につらいが、昔の座席夜行などはこんな座席で一晩過ごすのだから今では本当に信じられない。そうこうしているうちにさらに眠気も襲ってきた。なんとか起きていようとするのは本当に大変だった。アパート区間を通過し、千頭に到着した。



トマスフェアが終わったのか行きに通過したときに比べて千頭駅にいる人は少なく元の落ち着いた雰囲気を取り戻していた。とりあえず窓口へ行き硬券入場券を購入。そして、まだしっかりと昼食がとれていないのでかすかな希望を持ち駅前へ出てみたが弁当を打っているような店は特になかった。結局お茶羊羹一口サイズ

2個入りを購入し車内で食べることにした。

駅に戻って金谷行に乗車。車両は行き同様16000系である。着席できたのでとりあえず羊羹を食べる。面倒くさい包み紙などがなく、筒状になっているものの底の部分を押すと一口サイズの羊羹が出てくるようになっておりとても食べやすい。また味の方もなかなかのものである。今後大井川鉄道に乗ることがあればまた買おうと思う。しばらく乗車していると少し離れた座席に座っておられる先輩のお腹の調子が悪く我慢できないかもしれないという情報が入ってきた。車内にトイレはなくまだ金谷までは時間がかかるので相当やばい状況である。僕はストッパ下痢止めを持っていたので1つ渡したのだが、正直僕自身ストッパを服用してすぐ効いたためしがないので大丈夫かなと思っていた。結局新金谷の2つくらい手前の駅で先輩は限界がきて降りてしまった。その後どうなさったかについて僕は知らないが僕も旅先でこのようなことになったら本当に困るなど他人事ではなかった。金谷には少し遅れて到着した。

金谷 18:21→掛川 18:35 18:44→豊橋 19:45 19:49→名古屋 20:42

少し遅れたため所定の列車には乗車できなかつたが、掛川からは所定の列車に乗車できるようである。改札を入ったのちまだ時間がありトイレに用を足しにいく人がいたのだが、トイレから戻ってくる人が口をそろえて「手洗い用蛇口の水圧がやばい」というものだから僕以外全員それを確認しに行こうと1人ずつトイレに行った（と思う）。正直僕もトイレにいってその様子を確認しておけばよかったと後からほんの少しだけ後悔した。金谷から名古屋まで特に遅れることもなく、定刻通り名古屋に到着した。昼からずっと大したものを食べられなかつたので名古屋で降りてラーメンを食べてから岐阜に戻つた。

岐阜	8:09	井川	14:49
	↓		↓
浜松	10:06 10:10	千頭	16:34 16:51
	↓		↓
金谷	10:50 11:04	金谷	18:01 18:21
	↓		↓
千頭	12:17 12:28	掛川	18:35 18:44
	↓		↓
井川	14:18	豊橋	19:45 19:49
			↓
岐阜			21:04